

さらなる飛躍を目指して 「今世紀の成田維新の年」に

平成14年3月定例会市議会が、2月22日から3月20日まで開かれ、平成14年度予算などの審議が行われました。本号では、同議会の冒頭に小川市長が行った「施政方針演説」の概要についてお知らせします。



市民が主役の市政を

西暦2002年、平成14年3月定例市議会にあたり成田市政を預かる者として、平成14年度施政方針の一端を申し上げ、議員各位ならびに市民の皆様のご理解、ご支援をお願いする次第であります。

さて、わたしは平成7年、市長に初当選して以来、二期、8年目を迎え、平成14年度は二期目の仕上げの年となります。

わたしはこの間、「住んでいて良かった」、「これから住み続けたい」、そして国内外から訪れる人々にとっては「また来たい成田」というまちをつくり上げたいと念願し、「清潔な市政」、「市民が主役の市政」、「効率的な市政」を基本理念に国際都市、観光都市、田園都市づくりを目指し市政に取り組んできました。

そして、皆様のご協力の下、都市計画税、国民健康保険税の減税により、市民の負担軽減を図る中、成田空港問題の解決、まちづくりなど都市基盤の整備、福祉、教育、環境などに意を注ぎ、諸施策を展開してまいりました。

そのような中であって本年は、成田市にとって最重要課題である成田空港問題の完全解決に向けて大きな前進ともいえるべき暫定平行滑走路のオープンを4月18日に控え、まさに「第一の開港」の年を迎えることとなりました。わたしは、本年を「今世紀の成田維新の年」



子育てを応援します（遠山公民館の子育てひろば）

と位置付け、議会の皆様共々旧来の成田市を脱却し、一新した国際空港都市への飛躍を市民と共に目指したいと存じます。

昭和41年7月、成田空港建設が閣議決定されて以来、いわゆる「ボタンの掛け違い」から、幾多の反対運動の中、多くの人々の血が流され、昭和53年に「第一の開港」、そしてその後、完全空港を目指し成田空港問題シンポジウム、円卓会議、成田空港地域共生委員会が開催され、成田市においても空港対策部を設置し、「地域と共生する空港づくり」に向け、「成田市共生大綱」、「なりた自然郷構想」を策

定するとともに、「成田市円卓会議」を開催し、さらに用地問題の解決に総力をあげて取り組み本年を迎えることとなりました。

「一歩二歩 今年こそ新滑走路」

数多くの関係者の一歩二歩の地道な努力が今日の暫定平行滑走路の供用開始に結実し、成田空港の完全化に向けての大きな第一歩となったことに対し、関係各位のご協力、ご支援に深く感謝し、共に成田維新に取り組む決意をお願いする次第です。

さて、本年はまたFIFAワールドカップサッカー大会が開催される年でもあります。この機会に世界の国々との交流を深め、特に青少年のサッカーをはじめとするスポーツ交流に力を注ぎ、国際空港都市成田を世界に向けて発信できる年としたいと念願しております。このため成田を訪れる人々にとって「わがふるさと成田」が、何よりも美しいまちであり楽しいまちであってほしいと願い、国際空港都市としての環境整備に全力を尽くしてまいりたいと考えています。

現下の成田市を取り巻く情勢は、日本経済が長期に低迷する中、米国同時多発テロの発生など、国際空港を抱える本市にとって税収などの自主財源の落ち込みが懸念され大変厳しい状況にあるといわざるを得ません。このような中であつても「日本一住み良いふるさと成田」の創造を目指す本市は、百年の大計に立つて「成田市共生大綱」、「なりた自然郷構



想」を推進するとともに、第6次総合5か年計画に沿って予算編成を行ったところであり
ます。

その結果、税など經常一般財源が減収する
中で特定財源の確保に最大限の努力を払い、
平成14年度は一般会計で前年度比1・0%増
の423億円、金額にして対前年度比4億円
の増の予算編成ができました。

特別会計・水道事業会計を加えた全会計で
は596億3、803万円で対前年度比1・
3%の減、金額にして8億0、265万円の
減という予算となった次第です。

一般会計の予算423億円を「口合わせい
たします」と市民に密着、「市民生活に密着し
た予算」あるいは「市民サービス」という意
味となります。

6つの重点目標に沿って

「2002年の成田維新の年」を市政運営
の基本方針として、昨年提案させていただ
いた6つの重点目標に沿って諸施策を展開し
てまいります。

- 1、成田空港問題の完全解決
- 2、福祉・医療行政の充実
- 3、駅前整備とまちづくり
- 4、観光と産業の振興
- 5、教育・文化行政の振興
- 6、環境行政の推進

1、成田空港問題の完全解決

暫定平行滑走路の供用開始により成田空港
の年間発着回数は現在の13万5千回から20万
回、国際線の旅客数も700万人増の3、4
00万人が見込まれ、地域産業などの経済の
活性化、雇用機会の拡大など、経済波及効果
が大いに期待されています。

しかしながら、暫定平行滑走路では飛行す
る機種、目的地などに制約が生じ国際空港本
来の機能が果たせないことから、当初計画に
基づく2、500メートル滑走路の整備は必
要不可欠です。今後とも国、県、公団などの
関係者と一体となって、話し合いによる解決
に向け全力で取り組んでまいります。

同時に、騒音下の土地利用、あるいは騒音
対策など、地域と空港の共生策の早期確立と
「成田市共生大綱」、「なりた自然郷構想」の実
現のための諸施策の積極的な展開を図って
いく必要があります。これら諸施策の展開にあ
たっては、計画的に財源の確保を図っておく
観点から、今年度は成田空港周辺対策事業
基金に5億円の積み立てを行い、積極的に対
応してまいります。

騒音対策として、A滑走路に加え暫定平行
滑走路供用開始に伴う新たな騒音問題に対処
するため、騒音監視体制の強化、民家防音家
屋維持管理費補助金の見直しを図るとともに、
騒音地域からの集団移転に対しても積極的に
支援してまいります。



暫定平行滑走路が4月18日から供用開始される成田空港

また、騒音下の地域振興策として、(仮称)
北羽鳥多目的広場の整備、久住地区騒音地域
土地利用のより具体的な計画を策定していく
とともに、里山ロードの整備、三里塚複合施
設整備事業の推進を図ってまいります。

成田新高速鉄道事業につきましては、国に
おいて補助率の引き上げを含む予算が政府案
に盛り込まれ、平成14年度には事業化の見通
しとなりました。事業全体の負担割合につ
いては現在関係団体と協議中であり、市の当初
予算に計上するまでには至りません。しかし、
成田新高速鉄道は、成田と都心を30分台でつ
なぐという空港アクセスとしての機能充実と



平成14年度施政方針

ともに、成田市の発展のためには、成田北新駅に加えて土庫駅の設置は必要不可欠であり、今後とも関係機関と十分協議を重ねて、補正予算で対応できるように努力してまいりたいと存じます。

2、福祉・医療行政の充実

本年は、福祉センターの本館部分が完成し、名称を「保健福祉館」として7月にオープンいたします。この「保健福祉館」は、保健福祉、医療が一体となった総合的な施設で、日本建築の温かみを生かし、木造平屋建て、瓦葺きで小さな子どもからお年寄りまで、そして障害をもった方々も自由に使えるふれあいの場として、多くの市民の皆様にご利用していただけるものと考えております。

この「保健福祉館」の整備は、本年度は水療育室を備えたマザーズルームを建設するとともに、平成15年度には夜間急病診療所を建設していく予定です。

少子高齢化対策としては、児童ホームを、成田小・本城小に新設するとともに、既存の児童ホームを利用した子育て支援事業を展開します。

高齢者対策としては、学校開放の一環として高齢者の憩いの場を開設するほか、徘徊高齢者対策などの施策を展開してまいります。

障害者対策として、「保健福祉館」内に精神障害者小規模通所授産施設を開設するとともに、障害者小規模福祉作業所運営補助、在宅



着々と工事が進む保健福祉館

障害者一時介護料助成、成年後見制度支援事業を行います。

介護保険制度の運営については、社会福祉施設整備に対し助成することにより、その基盤整備を図るとともに、介護相談員を増員するなど、物心両面にわたりきめ細かな福祉施策を展開してまいります。

医療行政の充実にあたっては、成田市をはじめ富里市、酒々井町、栄町の共同設置による休日夜間急病診療所を夜間急病診療所として365日開設し夜間救急診療体制の充実を図るとともに、成田赤十字病院増改築事業に引き続き助成を行うなど、保健、福祉医療の

充実に努めてまいります。

3、駅前整備とまちづくり

成田の表玄関、成田駅前中央口の整備については、都市計画決定の手続きを経てその事業化に向け努力してまいりたいと存じます。

都市基盤整備としては、囲護台踏切立体交差化事業の推進を図り、平成15年度の暫定供用開始を目指すとともに、郷部線整備事業、馬橋竹下線整備事業、公津西土地区画整理事業などの推進を図り、さらには仲町地区に引き続き上町、花崎町地区において電線地中化事業を平成14・15年度の継続事業として実施してまいります。

表参道整備事業によるセットバック事業あるいは栗山公園をS.L公園として再整備を図るなど、中心市街地の活性化を図ってまいります。



電線がなくなってすっきりした表参道

4、観光と産業の振興

平成2年にスタートした坂田ヶ池総合公園整備事業は、ようやく完成のときを迎えます。今年度は溪流の径の整備をはじめメイン駐車場の整備などを行い、平成15年度の全面供用開始を目指します。

こころは宗吾350年「遠念にあたり、義民まつりの開催、また義民ロードの整備、さらには祇園祭など、各種イベントを通じ国内外の観光客に楽しんでいただく「ワンタフル



遊具が完成し、より充実した坂田ヶ池総合公園

成田」の創造を目指します。

産業の振興にあつては、現下の厳しい雇用情勢を踏まえ、緊急地域雇用創出特別基金事業を拡大するとともに、中心市街地の活性化事業を推進してまいります。

農政関係では、宝田地先に建設された地域農業管理施設に地図情報システムの導入を図ることにより農地流動化を推進、さらには農業機械のリース事業の展開、直売所建設への補助など、経済センターの充実に努め、成田市農業センターを拠点として農地保有合理化事業を推進し、農地流動化による担い手の育成確保、成田市堆肥土づくり実践館の完成に伴う循環型農業の確立を目指します。

空港周辺の農業については、空港と地域の共生を図るため多面性をもった直売所の整備を支援し、地産地消の推進を図ってまいります。

5、教育文化行政の振興

日本の未来、成田市の未来は、将来の世代を担う子どもたちの教育にかかっています。

平成14年度は、新学習指導要領に基づく教育課程が完全実施される年であり、学校、家庭、地域社会が一体となった特色ある教育活動を展開していく必要があります。そのため教育環境の充実、さらにはソフト面での充実を昨年に引き続き強力に推進してまいります。

学校教育長期ビジョンに基づき、個性を生かす教育推進事業として、少人数学習推進教



タイのバンブーダンスで文化交流

員および健康推進教員30人を引き続き配置し、学習指導・生徒指導両面のきめ細かな指導を行ってまいります。

国際都市成田にふさわしい人材の育成のため、小中学校における英語教育の大幅な拡充、小中連携英語学習研究校事業の開始、さらには学校図書館司書の充実などに努めるとともに、教育センターの臨床心理士を増員するなど適応指導教室の充実を図ってまいります。

義務教育施設の整備としては、課題であった久住中移転問題について、地元の理解と協力をいただき、久住第一小学校敷地内に暫定移転することとなり、4月から暫定校舎での授業が開始されますが、この変則的な教育環境の早期解決を図るべく新中学校建設に向け



平成14年度施政方針

最大の努力を注ぐとともに、市内小中学校の規模の適正化、適正配置に取り組んでまいります。

西中学校改築事業では現屋内体育館の解体グラウンド整備を行い事業の完成を目指すとともに、久住第一小学校グラウンド整備、あるいは玉造小学校東棟耐震補強事業、さらには校内LANの整備を引き続き実施してまいります。

文化振興の面では、文化財保存展示施設の建設に向け所要の予算を計上しました。生涯スポーツの推進にあたっては、生涯スポーツマスタープランに基づき、陸上競技場の走路の改修、陸上競技場スタンド改修工事基本計画の策定に着手するなど、施設の整備拡充を図っていくとともに、これらの施設が有効に活用されるよう、各種大会の誘致を図ってまいります。

ワールドカップサッカー大会のキャンプ地の誘致につきましては、残念ながら大変厳しい状況にはありますが、茨城の鹿嶋を試合会場とするチームの練習地としての誘致、さらに青少年の陸上競技、サッカー交流などの活用に総力をあげて取り組んでまいります。

また、学校開放の一環として学校プールの一般開放を行うなど、既存施設を利用したスポーツ振興を図ってまいります。

生涯学習の推進にあたっては、生涯学習推進計画に基づき、明治



クリーンハイキングで印旛沼の自然を守ろう

大学・成田社会人大学、ＩＴ講習会などを引き続き開催するとともに、教育面からの子育て支援として家庭教育学級などの開催、さらには青少年交流体験事業を本年度より本格的に取り組んでまいります。

6、環境行政の推進

今日の環境問題は、地球的規模で考えていかなければならないと同時に、市民一人ひとりが何が出来るかを考えていかなければならない問題であると認識しております。

わたしたちには、20世紀の大量消費型社会から資源循環型社会への転換が求められており、次代を担う子どもたちにこの豊かな成田の自然を保存していく責務があります。

「なりた自然郷構想」を基本として、里山や水辺などの自然環境の保全を実現していくとともに、現在策定中である環境保全率先実

行計画に基づき、低公害車の導入、動植物生息調査の実施など、各種の施策の展開を図るとともに、いずみ清掃工場のダイオキシン対策、焼却灰のエコセメント化事業、生ごみ堆肥化モデル事業のさらなる推進など、循環型社会の構築に向けて前進してまいります。

新ごみ処理施設の建設に向けては、富里市との共同設置を視野に入れ、広域化計画の策定に取り組み、平成20年度の完成に向け努力してまいります。

いずみ聖地公園の拡張事業にあつては、新たに2,500基の墓地増設のため、用地測量などの具体的な作業に取り組んでまいります。

クリーンヒル周辺整備事業として、多目的広場を整備するなど地域振興策を推進してまいります。

*

時代は大きく変わろうとしています。

「今世紀の成田維新の年」

維新とは、すべてが改まって新しくなることでもあります。

成田におきましても成田の先人たち、ゆかりの人々は政治、経済、教育、文化など各方面で世界に目を向け、世界に学びその知識を成田の先覚者として花を咲かせました。

わたしたちはこうした先人の志を継いで国際的な成田維新の人材を輩出させ、成田を世界の都市として飛躍させる千載一遇の好機を十分に活用したいと思えます。

議員各位、市民各位の一層のご支援をお願いし、わたしの施政に関する所信を致します。